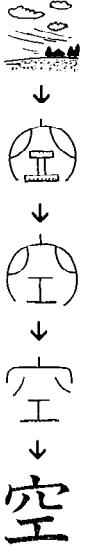


空

一年
筆順
ワン そら・から・あ||く||ける

成り立ち

使い方
熟語例

“あなぐら”的たちをあらわし、“あな”といういみをあらわした“穴”と、“ものさし”的たちをあらわした“工具”的いみの“工”とをくみあわせてつくった字で、「工具をつかつて穴を開けること」をあらわしたものです。“空ける”といういみの字です。

空けたところはなにもないので、空といいます。

また、“空”というのは、あおくみえるだけで、なにもないところなので“空”というのです。
“工”という字は、漢音はコウで、吳音がクです。だから、“空”という字は、はじめは“ク”とよみましたが、おきょうでよくつかわれることばで、“クー”とのばしてよんだため“クウ”となつたものです。

月

一年
筆順
ワン オン
画数
ツン
つき
4
月月
ゲツ・ガツ



成り立ち

使い方
熟語例

△ お月さまの光のことと月光といいます。

△ としのはじめの月を正月といいます。

△ お月見（八月十五日と九月十三日の月はとくべつにうつくしい月といわれて、むかしからかぞくそろつて月を見るしゆうかんがありました。）

△ 明月（明るい月、といいうみのことと、十五夜・八月十五日の夜、十三夜・九月十三日の夜、の月のことといいます。）

△ 月給（一月のはたらきにたいしてはらわれる給金。じゅぎよ）

△ お金のこと。（カネのこと）

△ 月謝（一月のしどうにたいする謝礼のお金。じゅぎよ）

△ 歳月（歳はとし、年月とおなじことば。また、月日とおなじいみにもつかいます。さらに、”とき”的いみ）

△ 満月（まんまるいかたちの月。十五日の月。むかしは“もづき”といいました。）

△ 二日月（みちはじめて二日めの“ほそい月”）

月は、まんまるいかたちが、まいばんかけていき、すつかりくろくなると、こんどはだんだんふくらんでいき、またまんまるくなります。このあいだが三十日かかりますので、三十日かんを“一月”といいます。

むかしのこよみは、月のみちかけをもとにしてつくりましたので、月のかたちで日日がわかりました。みちはじめが一日（月たちといいうみ）で、まんまるになるのが十五日、まづくろになるのが三十日でした。

△ 歳月（歳はとし、年月とおなじことば。また、月日とおなじいみにもつかいます。さらに、”とき”的いみ）

△ 満月（まんまるいかたちの月。十五日の月。むかしは“もづき”といいました。）

△ よくはれた“青空”を、ばくおんをたててジャンボの“航空機”がとんていきました。

△ “空きびん”がほしいので、のみたくもないのにジュースをのんで、びんを“空”にしました。

使い方
熟語例

△ 青空（青い空。じゅくごのときは、“そ”が“ぞ”にかかります。）

△ 航空機（「空を航行する機械」といういみのことばで、飛行機のこと。）

△ 空き家（「空いている家」。すむひとのいない家）

△ 空き地（たてものがたつていない土地）

△ 空車（「空の車」。おきやくがのつていな車や、荷もつをのせていない荷車のこと）

△ 空想（じつきにありえないことを想像すること。）

△ 空論（じつきにありえないことを議論すること。）

△ 空前（いまより前にはまつたくなかったこと。はじめてのこと）をいいます。例：空前のできごと）

一八